

★今回のテーマは

# 子どももの遊び

皆さんのお子さんは、毎日、どんな遊びをしていますか。子どもの遊びに潜んでいる大きなヒミツについて考えてみましょう。

## 失われた遊び場と無くなったしまった遊び

自宅の周辺を見渡してみてください。皆さんが子どもだった頃とは何か違うと思いませんか。

缶けりや鬼ごっこをした空き地、田んぼに咲いているレンゲで作った花冠、大きな水溜りの中にあるおたまじゃくし取り、近所の路地をめぐった探検ごっこ……

でも、最近の子どもの遊び方は、「楽しみながら学ぶ教材」や遊び方が解説されているおもちゃなど、子どもが遊ぶためのだけに開発され、大人が用意した商品で、家の中で遊ぶことが多くなってきています。

空き地や田んぼのような遊び場、おたまじゃくし取りや探検ごっこなどの遊びは、今はもうあまり見かけなくなってしまうかもしれません。このような、今、失われつつある遊

びですが、子どもの成長においてとても重要な役割があります。単に「楽しい」「なつかしい思い出」というだけではない、遊びの役割について考えます。



体づくりに必要なのは、「食事」と「運動」ですが、子どもが小さいときは、「運動=遊び」です。乳幼児期は、走る・跳ぶ・投げるといった基本的な動きを学習し、運動の仕方を身につける大切な時期です。

### Hint1 外遊び

体をつかった外遊びは、丈夫でたくましい身体の土台をつくることができます。

## 地域の中で遊ぶことの少ない子どもたち

今、家の中でマンガ、テレビ三昧で孤立した状態で親の帰りを待っている子や、一日が家庭、学校、塾の往復で終わってしまう子、同級生と遊べない子などが多くなっています。犯罪や事件に巻き込まれる恐れがあるなど、地域が安全安心の場でなくなっていることも原因とされています。子どもたちは、地域の中で大人と関わり活動することで、生活実感を得ることができます。そして、親や教師でもない地域の大人と遊ぶことは、地域に愛着が増し、あいさつもできるようになります。

また、地域の大人たちも、子どもたちと関わる楽しさを知ることにより、さらに多くの大人たちが地域の子どものために協力してくれるようになります。地域と子どもたちとのつながりは、とても大切です。



加藤千佐子先生  
作新学院大学短期大学部教授

自然の中での遊びは、生きていく実感を育て、生き物の命を知ることができる



生き物などとふれあうことは、驚きや感動と「生きている」ものの存在を感じる体験につながります。豊かな感情と命を大切にすることを育みます。

### Hint2 生き物や植物とふれあう遊び

### Hint4 群遊び

同じ年齢、異なる年齢の子どもとの群遊びの中から、他人とのつき合い方やルールを学び、社会性を育むことができます。



子ども同士で遊ぶと、ものを取り合ったり、遊びのルールを破ったり、往々にしてケンカが生じます。一見、わがままな行動として大人が介入したくなりますが、こうしたやりとりの中で、子どもは「ほかの人」を知り、社会性を育んでいきます。年下の子は我慢することを、年長の子は思いやりの心やリードする役割を学んでいきます。

### Hint5 多様な遊び

たくさん種類の遊びから、それぞれの名人が生まれ、自尊心が育まれる



ベーゴマ、竹馬、ゴム跳び…。子どもから子どもへと受け継がれてきた伝承遊び。遊んでいるうちに技が磨かれ名人に。それが自分の良さを発見です。遊びの数だけ名人が生まれます。

遊びは、子どもの成長にとって、無駄なことは一つもありません。これから何十年と生きていくための基礎的な体力や身体能力のほかにも、感動を感じる豊かな心、命の大切さを感じる心、工夫する方法を考えられる創造力、他人と協調して関わることでできる社会性、我慢する力、集団をリードする役割、自信から育まれる自尊心……。遊びは、子どもの心の成長にとって、大きな役割を果たしているのです。そして、心の成長は、学力を育てる土台となります。子どもは遊びが仕事です。

子どもの遊びは成長のエンジンです！



### Hint3 生活の中の遊び

日常生活の中にあるものすべてが、子どもの創造力を培う道具となり、生活能力の基礎を養うことができます。



大人にとってはなんてことのない生活道具も、小さな子どもにとっては初めて触れる未知のモノです。遊びながら、大人の思いもよらない発想と創造力を発揮します。あまり手を出し過ぎないように、子どもと同じ目線で一緒に遊んでみるのも、楽しいですよ。